

(十九丁ウ〜二十丁オ)

①茶ちやの湯ゆのどうぐ得ると見れハ、かならずひんきうになるしるしなり、

②きつねをミレバ、人のうたがひをうくる事出来るなり、

③畜ちくしやう生たつてもものいふとミレバ、凶きよふなり、下人などハだまさるゝことあるべし、用心すべし、

④童子とどうじあるひハ童女とどうによをミレバ、大吉だいきちなり、神しんぶつの冥助たすけを得るなり、

⑤神あらわれ吉凶をつけ給ふとミるは、大吉にしてさいわいを得てうんつよし、

⑥天の神われをめし給ふと見れば、立身出世しつしんしゅつせすべし、よくくつゝしミ給ふべし、

⑦鞆たもとをミレバ、吉相きつさうなり、おもひよらぬ事にてさいわひあるべし、

⑧また、まりをけると見るは、あしく、かならずわざわいあるべし、

⑨芋ををうむとミレバ、ちやうめいのしるしなり、よろづつゝしミてよし、

⑩いともつれけるとミレバ、公事ごとあつてむつかしく、女は身のうへこしやうあるべし、

⑪そめたるいとをミレバ凶なり、せはくろう多し、

⑫藍あゐをミレバ、よろづのげいのふにほまれを得るなり、

⑬おけをミレバ、半吉なり、ほうこうのえんありて身のかたづきあるべし、はやく事をとりはからひてよし、

⑭すりばちをミレバ、凶なり、さうだん事とゝのわず、

⑮蜂はちあるひハ虫などにあしをさゝるゝとミレバ、相場さうばなどにて利りを

得<sup>え</sup>べし、

⑩あしにきづゝきて血<sup>ち</sup>いづると見れば、ふうきなる兆<sup>しるし</sup>なり、